

CA1
EA947
B71
#10 Feb. 1977
DOCS



カナダ

1977年2月
No.10

LIBRARY E A / BIBLIOTHÈQUE A E

3 5036 01029992 6

- トピックスー2
- カナダ、原子力安全保障措置を再強化ー3
- カナダの都市と観光地ー4～5
- カナダの社会保障ー6
- カナダ経済は安定成長へー7
- トピックスー8

EXTERNAL AFFAIRS
AFFAIRES EXTERIEURES
OTTAWA
MAR 3 1977
LIBRARY / BIBLIOTHÈQUE


60984 81800

トピックス

電波天文学に新兵器 口径八百km相当の望遠鏡を実験

静止宇宙衛星を利用して、直径五百メートル（約八百キロメートル）の超大型望遠鏡一台に相当する解像力を作りだせることが分った（ソ連コーカサスの望遠鏡が口径六メートル）。カナダと米国の電波天文学者チームは、このほど、カナダの通信衛星を利用して、米ウエスト・バージニア州にある国立電波天文台からカナダ・オンタリオ州のアルゴンキン電波観測所へデータを送信、その電波をアルゴンキン観測所で結合してこれだけの解像力を作り出すことに成功した。この解像力だと、はるかかなたの銀河やクエイザー（恒星状電波星雲）でも、一パーセント（角度秒）年周視差が角度の一秒に当る距離）の千分の一まで規模や形の測定が可能だという。

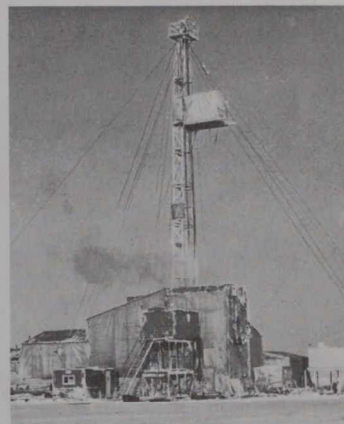
二台以上の望遠鏡を「合成」して口径を大きくするのは、電波天文学では別に新しい方法ではない。しかし非常に離れた地点にある望遠鏡を使って、地球と同じぐらいの大きさの望遠鏡ほどの解像力を作り出したのは前例がない。

氷海に天然ガス掘削基地 北極でのエネルギー開発

カナダでは、国内石油・天然ガスの埋蔵量が減少傾向にあるほか、石油製品の国際価格が急増したため、オイルサンドや既存産油地域以外でのエネルギー探査・開発が強力に進められている。特にボーフォート海のマッケンジー川デルタ地帯やメルビル島、エレフ・リングネス島などの北極地域での探査が盛んで、こ

れらの地域ではすでに大量の天然ガスの埋蔵が発見されている。

ただ、これらのガス層は沿岸にまで伸びており、自然の厳しさもあって、その開発は容易でない。そこで考案されたのが海水構造物。カナダでは、すでに十九世紀末から、冬の間、氷った川の上に線路を敷いたり、道路を通したりしていたが、こうした経験をふまえ、氷塊に掘削



氷上に建設された掘削基地

装置をすえる方法が開発された。海水の塩度や強度、温度、たてよこのたわみなどを十分調査し、安全性を確かめたうえで、さらに厚く、強化して掘削基地を建設するわけである。実験では、この方法により九百二十メートルの深さまで掘削できることが実証されている。

公定歩合を八％に引下げ インフレ抑制が奏効

カナダ銀行は昨年暮れから今年初めにかけて、公定歩合を九・五パーセントから三回にわたって〇・五パーセントずつ引下げた。新しい公定歩合は八パーセントになる。同銀行のブイ総裁は、引下げの理由について、国内のインフレ抑制がかなり達成されたこと、通貨供給量の伸びが目標の八〜一二パーセントの下限内に抑えられてきたこと、を上げている。

失業率（十二月）七・五％に

カナダにおける十二月の失業率は、前月の七・三パーセント（失業者数七十七万八千人）から七・五パーセント（同七十五万四千二人）に増えた。年間では七・三パーセントとなり、一九七五年の六・九パーセント、一九七四年の五・四パーセントよりかなり悪化したことになる。

外資残高六百億ドル（七四年末）に 八割近くは米国から

カナダ統計局によると、カナダにおける一九七四年末の海外からの長期投資残高は六百億一千三百万ドルに達した。前年に比べて五十六億ドル増である。投資総額の七七パーセントは米国の企業および個人投資家が占めた。二位は英国の九パーセント。

貿易収支、四ヶ月連続の赤字

カナダの十一月の貿易収支は、輸出が十月より四・五パーセント減、八月に比べて一三パーセント減の二十九億八千五百万ドルだったのに対し、輸入が前月より四・五パーセント増の三十億八千九百万ドルと、一億四百万ドルの赤字を記録した。これで四ヶ月連続の赤字となる。

脳下垂体が痛み止め物質を分泌

似たような病気やケガでも、人によって痛みかたが違うということがよくある。モントリオール臨床研究所の研究グループは最近、人間の脳下垂体がモルヒネのような止痛物質を分泌することを発見、痛みの差はこのせいではないかと推測している。

新着図書とフィルム

カナダ大使館の図書室に、次のような図書やフィルムが入荷した。図書室の図書やフィルムは、一般の人々に自由に貸出している。

新着の図書

- "Between Friends" (National Film Board)
- "Canada on Stage 1975"
- "The Bands Canadians Danced To" (H. McNamara and J. Lomas)
- "Friendly Persuasion" (N. & H. Mika)
- "Logging Road Travel" (A. & T. Merriman)
- "The Wheel of Things: A Portrait of L. M. Montgomery" (M. Gillen)
- "Main Street" (M. Yeates)
- "Farewell the Ivory Tower" (J. A. Corry)
- "Original Canadian Cook Book" (H. Gaugeon)
- "The Enemy That Never Was" (K. Adachi)
- "Culture Territoire et Amenagement" (G. Dubreuil and G. Tarrab)
- "Ken Watson on Curling" (K. Watson)

新着のフィルム

- "Images of Canada Series"
- "Hon. Donald C. Jamieson"
- "To Catch a Trout"
- "A Research Brief" (日本語版-「国立研究所」)
- "Tamara's Tapestry World"
- "Selling Out"
- "A Portrait of Leonard Hutchinson"
- "A Sense of Place"
- "Tracker," "In All Seasons"
- "British Columbia—Mountains to the Sea"
- "A Walk in the Forest"
- "Plea for the Wanderer"

カナダ、安全保障措置を再強化

原子力を平和利用のみに制限

カナダ政府は、原子炉およびウランの輸出に関する安全保障措置（セーフガード）をさらに強化することになった。これにより、新規契約に基づく核兵器非所有国への輸出は、核兵器非拡散条約の批准国または国内の全原子力計画に対する国際原子力機構の安全保障措置を受入れる国々に限られることになった。したがって、核爆発を行う核兵器非所有国に対する原子力関係の輸出は、当然停止される。

カナダは、すでに一九七四年十二月、カナダが提供した核物資、核装置、および核技術を核爆発その他の不法目的に使用しない、という予防措置を受入れ国に課す政策を発表している。カナダの予防措置の目的は、核兵器の拡散を防ぎつつ、カナダの原子力協力を平和利用のみに制限する意図を示す諸国に対してウランおよび技術の正当な要請に応えることにある。

これまでの核輸出政策では、カナダの提供するものが爆発用に利用されないという拘束的保障を課していたものの、第三国から受入れるか、または自力で得た核物資や装置、技術については触れていなかった。新しい政策はこのギャップを埋

めるもので、今後、カナダの原子力関係輸出は核兵器非拡散を明確に誓約した国にのみなされることになる。

カンドゥ型原子炉の開発は、カナダの大きな技術的成果である。この技術は世界の石油依存度を軽減するのに必要だ。その上、先進工業諸国は、増大するエネルギー需要に応えるためそれぞれ原子力発電計画を実施し、そのためのウラン燃料の供給源としてカナダに依存している。発展途上諸国も、在来エネルギー源を消費し尽し、現在の大型原子炉に必要な全国送電網を整備すれば、原子力に目を向けるだろう。エネルギー節約や再生利用の研究開発に力を入れるのはもちろんだが、カナダおよび世界のエネルギー計画は現在入手可能なエネルギー源を基に作られるからである。

カナダ政府は、貿易相手国の正当なエネルギー需要というものを承知しているが、核兵器の拡散を避けるためにできる限りのことをしようと決めた。安全予防措置の強化を一方的に決めたのは、この理由による。カナダの予防措置が他国のそれより厳しいために予想される商業的不利は、人類に対する核拡散の脅威を減少させるための代価として、カナダは甘んじて受け入れるつもりである。

んじて受け入れるつもりである。

カナダの政策が効果を発揮するには、他の核供給諸国が同様の輸出政策をとることが肝要である。カナダはこれまで、供給国間の協議で、原子力関係輸出を核兵器非拡散条約の批准国または全面的な全予防措置を承諾する核非保有国のみに限るとの共同決定を行うよう働きかけたが、これは残念ながら今日まで実現されていない。そこで、とりあえず、カナダとしてはその力の及ぶ範囲内で、すなわち、カナダ自体の核装置、技術、ウランの輸出に関して責任をとることにしたわけである。他の核輸出諸国も、商業的利益の観点からではなく、世界の安全を維持するために、それぞれの輸出政策を再検討するよう、望まれている。（連邦下院におけるジェイミソン外務大臣の演説から）

パキスタンへの輸出を停止

カナダから原子炉やウランを購入する諸国に、それぞれの国内全原子力計画に対する安全予防措置を課す、というカナダの新政策は、ただちにパキスタンに適用された。

ドン・ジェイミソン外務大臣の発表（十二月二十二日）によると、パキスタンが核装置を開発、爆発した場合、あらゆる原子力協力を停止する権利を含む二国間規制措置をカナダは求めていたが、パキスタンがこれを拒否したため、交渉は決裂した。そのため、カナダ政府は同国への原子力関係輸出および技術協力を即時とり止めることになったもの。

東京で原子力協力協定の改定交渉

セーフガードに関するカナダ政府の新

方針を受けて、一月末、東京で日加原子力協力協定の改定交渉が行われた。カナダ側からフルフォード外務省技術経済局長らが出席、カナダ政府の立場を説明した。今回の交渉はすでに二回の期限延長をへて行われたもので、カナダとしては早く改定を実現して、対日ウラン供給に支障がないようにしたい意向である。

カナダ政府の立場は、一九五〇年代から一九六〇年代初めに締結された諸外国との原子力協力協定がその後の技術的進歩や状況の変化にそぐわなくなってきたため、現状に合わせ、原子力の軍事転用や核爆発目的の使用をあくまで防止したいというものである。この方針に沿って、カナダは①新協定の適用期間をカナダが供給したウランや技術が（再生などを含め）使い続けられている限り、有効なものとする②慎重な取扱いを要する技術にセーフガードを課し、またカナダ（または日本）から導入した技術などを第三国に移転する場合、国際的査察がなされるよう二国間で協議する③原子力を核爆発目的に使用しないことを改めて誓約する④核の盗難防止について取りきめる——などの規定を新協定に盛りこむよう提案した。フルフォード局長は、カナダから日本が導入した原子力技術やウランに対しカナダが査察権を求めているという一部報道を強く否定し、カナダは日本と同様に、国際原子力機構（IAEA）による国際査察を支持している、と指摘した。カナダのねらいはセーフガードを強化することであって、両国間の技術協力や対日ウラン輸出は今後も支障なく続けたい意向である。

変化に豊む風物

カナダの都市と観光地

無辺ともいえるほど広大で、地理的にも民族的にも多様なカナダ。訪れる人にとって、これほど魅力に富む国も少ない。針葉樹林と山と湖、特にロッキーマウンテン脈で知られる西部カナダ、果てしない地平線と未踏の荒野、何千もの湖と河川、そして穀物の海が続く中部平原諸州、フランス系文化のケベック州、鉱物資源、肥沃な土壌に恵まれ、五大湖を南にひかえるオンタリオ州、そして厳しい自然との戦いに培われた伝統的友愛精神にあふれた人々の大西洋岸諸州。今号は、いくつかの名所を紹介しよう。

バンクーバー カナダで三番目に大きいバンクーバー市は、太平洋岸での最も重要な港町でもあり、州の財政、商業、工業の中心都市となっている。市は海岸山脈を背景に、ブリティッシュ・コロンビアのフィヨルド海岸の最南端にあるバード入江に接している。一七七八年にキヤブテン・クックが沿岸線を航行し、一七七四年と一七九一年にはスペイン人が、そして一七九二年に、この市の名の由来となったキヤブテン・ジョージ・バンクーバーが航行している。一八〇八年には

サイモン・フレイザーがサイモン・フレイザー川河口まで到達した。一八五八年に、このフレイザー川はゴールド・ラッシュでにぎわったが、ヨーロッパ人開拓者が定着したのは一八六二年以後。一八八六年にカナダ太平洋鉄道が完成するといちはやく市制が施かれ、バンクーバーは大発展をとげた。今では、多くの近代高層建築が立ちならび、背景の山々にスカイラインが美しく反映する魅力的な町となった。

●主なみどころ プラネタリウム、マリタイム博物館、トータムポール公園、新渡戸庭園、スタンレー公園、リブセットインディアン博物館、ガスタウン、チャイナタウン、木こり祭、サケ釣り大会。

エドモントン アルバータ州最大の都市、州都エドモントンはカルガリーから北へ二九八キロ離れた北サスカチュワン川沿いにある。州のほぼ真ん中に位置している。ハドソン・ベイ会社は一七九五年に商人や旅行者達の基地として、毛皮取引場であるエドモントン砦を建設した。一八七四年に北西騎馬警察（カナダ騎馬警官隊の前身）がこの地区の住民の保護のために赴任してきた。カナダ太平洋鉄道は一八九一年にはこの地区まで路線を拡張し、一八九八年のクロンダイク（ユークン準州）の金産出がエドモントンの成長の原動力となった。これはエドモントンを供給基地とし、またその後の幻滅した試掘者達の定住の地とした。一九〇五年には、新しくできたアルバータ州の州都となった。第一次世界大戦後、カナダ辺境飛行士が泥炭地、岩山や川を飛び越え、北極圏を股にかけて飛び回り、

同市は北部の航空業務の発展の中心地となった。第二次世界大戦後にエドモントンの南一六キロのレダックで最初の石油が掘り当てられ、それは止むことなく今日にいたるまで拡張し続けている。

カナダの肥沃な農業地域の中央にあつて、エドモントンは穀物、家畜、器具、食糧の集配地であり、かつ西カナダにおける最も重要な鉄道を中心地である。躍動的でありながら、西カナダのゆったりとした雰囲気を持ち、コスモポリタンの（約三十六ほどの民族からなっている）で、広い通りを持った都市計画のモデル都市でもあり、「カナダの原油中心地」、「北への玄関口」、「なつかしのクロンダイク時代のふるさと」などと呼ばれている。



アルバータ州バンフでのボート乗り。

●主なみどころ クロンダイク祭、ロデオ大会、国際スノーモービル大会、ジャスパー国立公園、開拓村。

ブリティッシュ・コロンビア州オクナガン谷の樹氷。



●主なみどころ オンタリオ州の州都トロントはオンタリオ湖の北西岸に位置し、ニューヨーク州バッファロー市からは百五十七キロ、ミシガン州デトロイト市からは三百六十六キロ隔たっている。トロントという地名は、インディアンの言葉に由来し、「人が会う場所」を意味する。また、この地は古く一六一五年のフランス人による毛皮取引きによって知られる。最初にここを開発した北部カナダ第一英陸軍のジョン・グレイブズ・シムコは、この地をヨークと名付け、その地名は一八三四年、市として合併されるまで続いた。今やトロントはセント・ローレンス水路の主な湖港になり、加速度的拡大に併う新しい高層建築と古い街路樹の続く通りとが素晴らしい対照をみせている。現代の金融と通商の中心メトロ・トロントは二百七十マイル四方にわたり、世界各地から新しい居住者がやってきていて、国際色豊かな市となっている。トロントはカナダの都市の中でも最もアメリカ的だといわれている。

●主なみどころ オンタリオ・ブレイス

劇場群、オンタリオ・サイエンス・センター、オンタリオ博物館、アート・ギャラリー、セントローレンス芸術センター、ブラック・クリーク開拓者村、ウッドバイン競馬。

モントリオール 昨年オリンピック大会が開かれたモントリオールはカナダでも大きく、最も古い都市の一つである。ちょうどセント・ローレンス川とオタワ

川の合流している地点の島にある。ここは一五三五年、ジャック・カルチエが最初に発見し、一六四二年にポール・ド・シヨムテイやシユード・メゾヌーブ他五十名が移住した。一八三三年に市になり、フランス的な雰囲気を保ちながら、国際都市として発展してきた。現在では市民の三分二がフランス系、二〇％が英国系で、他にも多くの国籍の人が住んでいる。商・工業都市であり、大西洋から千六百キロ離れてはいるが世界的に大きな港を持ち、素晴らしい食事とナイトライフ、そして文化生活で世界的に有名である。

モントリオールはすべての中心地である。その最もにぎやかな所は、下町のビジネス街の中心であるドミニオン・スクウェア。この広場のとなりにはカナダ国鉄とカナダ太平洋鉄道の駅がある。空港バスとリムジンもここから発着するので、ほとんどの旅行者が最初にこのスクウェア

に立寄ることになる。最初に印象づけられるのは、周囲を圧倒する摩天楼の高さであろう。この高層ビル群は、第二次大戦後の市の発展の「新顔」である。ドミニオン広場にあるカナダ・インベリアル商業銀行屋上の展望台からは、眼下に大都会を見下ろせる。

●主なみどころ ビル・マリー（旧モントリオール）、オリンピック競技場、メソヌーブ公園、マウント・ロイヤル、万国博覧会場、アラス・デ・アーツ。

ケベック市 ケベック州の首都で、モントリオールの北西二百七十キロ、セント・ローレンス川の川口から南西六百四十キロの北岸に位置している。カナダで最も古い重要な港であり、またモントリオールにつぐ同州第二の産業の中心地でもある。ケベックは一六〇八年、サミュエル・ド・シヤンプランによって建設されたカナダにおけるフランス文化の発祥地であり、「ニュー・フランス」におけ



ケベック市旧市街を馬車を一周する観光客。

る最初の居留地である。そのせいか、ケベックは北アメリカのどの都市にもまして、十七十八世紀のヨーロッパの都市を思い出させ、世界中で最も絵画的でロマンチックな町の一つとなっている。その名前はインディアンの言葉で「川がせまくなる所」という意味。

ケベックは、歴史的にその位置を地理におうところが大きく、川から百八メートルほど高台に位置する自然のとりでになっている。メキシコ以北での唯一の城壁にかこまれた都市である。そして、三世紀半以上ものあいだ、そのフランス的性格と生活様式を維持しつづけてきた。ケベック市民の九二％は普段フランス語を使うが、多くの人が英語とフランス語の二カ国語を自由に話し、訪れる人々はコミュニケーションの上ではほとんど困難を感じない。以上のようなことからケベックはカナダの中でも、もつとも人気があり、魅力ある地の一つとなっているのである。

●主なみどころ アラス・ターム（練兵場）、アラス・ロワイヤル、戦場広場、ウィンター・カーニバル、サマー・フェスティバル。

シャローット・タウン シャローット・タウンはセント・ローレンス湾にあるプリンス・エドワード島（カナダ最小の州）の州都で、カナダ連邦発生の地である。一八六四年に、国家を形成した「連邦の父達」によつて、カナダの歴史はぬりかえられた。彼らはシャローットタウンに集まり、政治的、経済的合体について語り合った。同市は現在、プリンス・エドワード島のビジネスと教育の中心である。

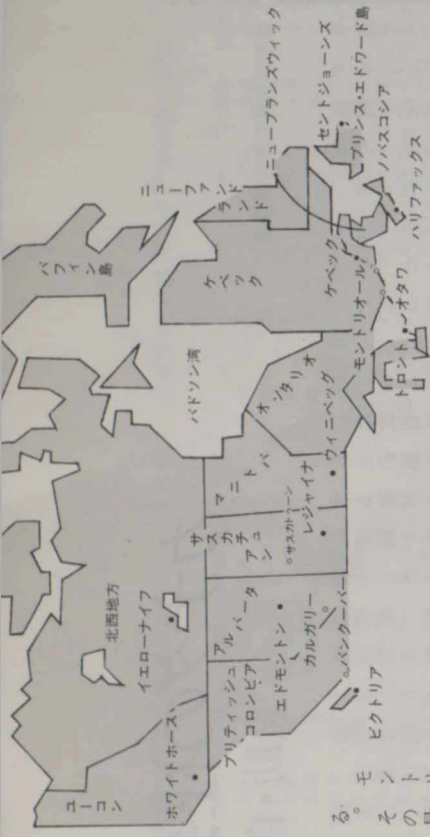
（プリンス・エドワード島大学がある。）しかし実質的には居住区で、広い芝生と堂々とした門構えの家々、落ち着いた街並みが印象的である。人々はスコットランド系、英国系、アイルランド系に加えて、アケイディア系とヨーロッパ系とさまさまであるが、その親切さ、落ち着いたのんびりした気性は有名。

●主なみどころ 州議事堂（一八四七年建設、連邦の父記念センター）、サマー・フェスティバル（ミュージカル）、赤毛のアンの家。

ハリファックス ノバ・スコシア州の州都で、主要港であり、世界で最も素晴らしい陸地に囲まれた港の一つである。ノバ・スコシア州のシドニーから自動車道で四百十キロ、モントリオールからは千二百三十キロの地点にある。二十六キロに及ぶ港は、一六〇七年にサミュエル・ド・シヤンプランが「すばらしく安全な湾」と表現している。一七四九年コーンウォリス卿により築かれ、ルイブルのフランスのとりでに対抗するため、二千五百の英国人将兵と家族が住んでいた。それ以来主要な軍港と基地となっており、大西洋をわたる大型艦隊を保護した。

一八四一年市に昇格。工業は多様化され、一九六〇年以來、高層建築が林立し、伝統的なゆつたりした大西洋沿岸のペースとコントラストをなしている。ハリファックスは鉄橋とフェリーでダートマスと結ばれている。ダートマスは港の東にあり、人口六万四千人の工業都市である。

●主なみどころ 百周年記念館、サンフォード・フレミング卿記念塔、ノバ・スコシア芸術祭、農業博物館、引き具競馬。



カナダの社会保障

自助・自立を助成



設計に取り組む身体障害者

カナダでは、一九七三年以来、連邦政府と各州政府間で社会保障制度の再検討が進められてきたが、この作業がこのほど終り、大幅な改善をおこなった新しい社会福祉法案がいよいよ近いうちに連邦議会に上程されることになった。

法案は現行のカナダ扶助法および身体障害者職業復帰法にかわるもので、実現するとカナダ扶助法の下での各種社会福祉施策が無料になるほか、カナダ年金法に家庭で働く夫や妻に関する特別条項が加えられることになる。そして、所得扶助計画が実現し、就業しない人たちに對する給付より就業している人たちに對する支給額が常に上回るようになる。こうした改善により、国民の自助・自立を高めていこうというのが、法案の主旨である。

これらの新しい諸施策が実施されるまでの、カナダの現在の社会保障制度はどのようなものだろうか。

カナダにおける社会保障政策は、連邦政府、州政府、市町村、および民間保険機関が分担しているが、その大半はカナダ年金法、老令年金、追加扶助、家族手当で、カナダ扶助法を管理する連邦政府厚生省が担当する。以下、個々の社会保障政策をみてみよう。

一、カナダ扶助法
同法は提出年金制度であるカナダ年金法の枠外にある貧困者に対し、州政府および市町村が行なう

社会福祉費用の二分の一を連邦政府が負担することを定めている。扶助には老人や身体障害者に対するワゴン食事サービス、乳幼児の保育や家庭、結婚などに関する相談、自活化扶助などが含まれる。

連邦政府は、また、老人ホームや療養院などの施設にいる貧困者や福祉施設が世話をしている子供たちに対する扶助についても、費用の半分を分担しているほか、仕事をみつかりそれを続けるのが特に困難な人、あるいは職業訓練が中々できない人の就職をできるだけ可能にするための扶助費を半額分担している。

二、身体障害者の職業復帰

これは身体的または精神的障害のためになんとした職業につけない人に対し、州政府が行なうカウンセリング、職業訓練、職業斡旋などの費用を、連邦政府が分担するもの。

三、新しい人生計画

引退した人々のグループに対する活動補助をするためのもので、一九七二年十二月から一九七五年十二月までに総額二千八百万ドルが四九百の活動計画（参加人員およそ九十万）に対して支給された。例えば、ある老人グループが学校の子供たちとつながりを持ちたいとして、援助を申請した。検討した結果、引退し



子供たちに読み方を教えるお年寄り

た人たちが教師の補助員として学校制度に組み込まれ、子供たちの社会的成長に一役買うことになった。

四、家族計画

すべてのカナダ国民に家族計画に関するさまざまなサービスを提供し、また家族計画についての調査研究を援助する。

五、福祉事業補助

いろいろな福祉関係事業や研究開発に對する補助を通じて、福祉サービスを強化しようというもの。

六、緊急福祉サービス

あらゆる緊急時に必要な福祉サービスを、地域組織を通じて実施する。

七、カナダ年金法

拠出制の国民（ケベックを除く）年金制度。被雇用者、雇用者とも所得の一・八パーセントづつ（合計三・六パーセント）自営業者は三・六パーセントを拠出する。

一定の居住条件を満たす六十五才以上の男女に對し、連邦政府が一律に月額百四十一ドル（今年一月現在）を支給する。支給額は物価上昇に合わせて、調整される。

九、追加年金

老令年金受給者のうち、年金以外に収入が皆無か、またはきわめてわずかしかない老人には、さらに加算して支給される。支給額は、独身または夫婦の一方が老令年金受給者でない場合は月額最高九十九ドル（二月現在）、夫婦とも受給者の場合は一人当り月額最高八十八ドル（同）。したがって、老令年金と加算額を合わせると、前者で最高二百四十ドル、後者で夫婦合計四百五十八ドルになるわけである。

十、夫婦手当

老令年金受給者で一定の居住条件を満たす六〇才以上、六五才以下の者に對し、年取に応じて支払われる。最高月額額は老令年金基本額と加算額（夫婦の一方）の合計に相当する二百二十九ドル。

十一、家族手当

十八才未満で課税収入がなく、カナダに居住し、両親のうち一人がカナダ国民であるか、もしくは一年以上前にカナダに移住した者を対象として支払われる。

福祉委員会

厚生大臣に對する諮問機関（連邦・各州政府の厚生次官や民間消費者団体の代表で構成）これまで所得保障、税制、福祉雇用、法的援助、貧困児童、低所得消費者、片親家族などの問題に對して答申している。

八、連邦老令年金

カナダ経済、過去四年の歩み

他の先進諸国より好成績

カナダの経済は、先進工業諸国の中で、
もきわめてうまくいっているほうだ。

カナダのロバート・
アンドラス内閣予算
局長官によると、過
去四年間のカナダ経
済は実質成長率、物
価、雇用などの点で、
経済協力開発機構(O
ECD)諸国と比べ
て着実な歩みを見せ
た。以下、同長官が

このほどブリティッ
シュ・コロンビア州
ビクトリア商工会議
所で行った講演から

拡大し、昨年の成長率四・八パーセント
(OECDの最新予測)を加えると、千
百六十五億ドルに達したことになる。換
言すると、一九七三年から昨年末までの
四年間に、百六十八億ドルのGNP実質
増があったわけである。

カナダ経済の実質成長率を評価するた
め、他の先進工業諸国がとったような経
済政策をカナダも踏襲したと仮定してみ
よう。経済政策の決定には、生産拡大、
物価の安定化、雇用拡大などといった諸
目標の調整が必要で、カナダとこれら各
国では目標も異なり、また調整のしかた
も異なっただけである。しかし、その選
択はどちらがすぐれていただろうか。こ
の質問に答えるために、カナダの国民総
生産が、過去四年間、主要OECD諸国
と同率で拡大したとすれば、実質GNP
成長はどうなっていたかを調べてみよう。

まずカナダの国民
総生産(GNP)の
実質成長率からみて
みよう。カナダの実
質国民総生産は、一
九七二年の約九百九
十七億ドルから六・
八パーセント(一九
七三年)、三・二パ
ーセント(一九七四
年)、〇・六パーセン
ト(一九七五年)と

この点で一九七二年以来カナダより実
績がいいのは、日本だけ。しかも僅差で
あるばかりか、日本はインフレや失業率
の上で高い代価を払っている。他の諸国
との比較では、明らかにカナダが優勢。
七二年以来のフランス経済は、OECD
加盟国としてはかなりいいほうに入るが、
カナダ経済の年率成長率がフランスと同
率であったなら、実質GNP増は実際よ
り三十四億ドルほど少なかったはずであ
る。米国や西独(両国ともインフレはカ

ナダよりきわめて弱かった)と同様の経
済政策をカナダがとっていたとしたら、
カナダのGNP増は四年間で八十億ドル
も減っていたことになる。

インフレについては、一昨年の末まで、
米国や一九七二年以前のカナダ経済に比
べて、いい成績を上げたとはいえない。
しかし、連邦政府がインフレ抑制政策を
実施した結果、昨年十一月の消費者物価
上昇率(年率)は一九七五年十一月の半
分以下で、一九七二年以来最低の五・六
パーセントにまで落ちた。

しかし、それでも、過去四年間にカナ
ダの消費者物価は約四一・四パーセント
も上昇している。国民の経済的期待に応
えるには、あまりに高すぎる数字である。
ただ、OECD諸国と比較すると、西独
(四年間の消費者物価上昇率はおよそ三
三パーセント)と米国(同三五パーセン
ト)が際立ってよく、スエーデンとオラ
ンダがカナダとほとんど同率である以外
は、日本が約七〇パーセント、イタリア
が四年間に二倍以上と、いずれもカナダ
より高率を記録している。米国や西独、
あるいはスエーデンなどにしても、実質
経済成長ではカナダより落ちるのは、先
に見た通り。

三番目の経済指標、すなわち失業率は
どうだろうか。失業率の計算方法は各国
まちまちで、比較はむずかしいが、過去
何十年かの傾向を比較することはできる。
それによると、カナダの失業率は一九六
二―七三の十年間で平均五・一パーセン
ト、一九七四年には五・四パーセント、
七五年には七・一パーセント上昇した。
昨年一月から九月までの平均失業率も一
昨年とおおよそ同程度の高率。したがって、

昨年一―九月の失業率は一九六二―七三
年の平均失業率に比べておよそ三九パー
セント上昇したことになる。このような
高い失業率を緩和するため、大蔵大臣お
よび人的資源・移民大臣は、冬期を中心
とした雇用促進政策を最近発表している。
しかしながら、カナダの失業状況は、
各国と比較するとそれほど悪くない。ス
エーデンの昨年一―九月の失業率は一九
六二―七三年の平均失業率を割っていた
し、イタリアも高いインフレ率という大
きな代償を払いつつカナダより状況はい
い。しかし他の六カ国の雇用市場は厳し
く、米国では過去三カ年間カナダより高
い失業率を記録しているし、ヨーロッパ
諸国でも労働人口はカナダほど速く増え
てないにもかかわらず、過去三年間、失
業率は戦後最高を維持している。例えば、
西独の失業率は一九六二―七三年の一・
三パーセントから昨年一―九月にはその
二・五倍増の四・六パーセントにはね上
っているし、オランダや英国、フランス、
ベルギーなどでも二倍以上になっている。

年率成長五・七%を予測

カナダ経済審議会

カナダ経済審議会の予測によると、海
外の景気回復と国内のインフレ抑制策に
より、カナダは今後数年間、実質五・七
パーセント(年率)の経済成長を達成す
る。当初は海外市場の景気上昇が、のち
には投資が主な刺激要因になるものと、
審議会ではみている。

主要OECD諸国の消費者物価上昇率

	1973	1974	1975	1976(年率) (二十月)
カナダ	7.6	10.9	9.8	7.9
米国	6.2	11.0	9.1	6.0
日本	11.7	24.5	11.8	9.1
西独	6.9	7.0	6.0	4.7
フランス	7.3	13.7	11.7	9.5
英国	9.2	16.0	23.4	16.5
イタリア	10.8	19.1	17.0	15.3
オランダ	8.0	9.6	10.2	8.9
スウェーデン	7.0	12.7	12.7	9.5
デンマーク	6.7	10.1	9.7	10.0

出所「OECD主要経済指標」1976年11月
「OECDプレスリリース」

主要OECD諸国の実質経済成長率

	1973	1974	1975	1976(予測)
カナダ	6.8	3.2	0.6	5.0
米国	5.9	-1.7	-1.8	7.0
日本	9.8	-1.1	2.1	6.25
西独	5.3	0.4	-3.2	5.5
フランス	5.9	3.1	-1.2	6.25
英国	5.6	0.3	-1.9	2.25
イタリア	6.0	3.4	-3.7	1.5
オランダ	5.2	3.3	-1.1	4.0
スウェーデン	6.1	4.0	-1.4	3.75
デンマーク	3.5	4.1	0.6	1.5

出所「OECD経済見通し」1976年7月
「主要経済指標」1976年11月

トピックス

老令年金の給付額を引上げ 夫婦で最高四百六十ドルに

カナダでは、一月、物価上昇にともなう老令年金給付、追加年金給付、夫婦手当などの引上げが行われた。これにより基礎老令年金と追加年金（最高額）の両方を受給する独身者には月額合計二百四十ドル、双方とも年金を受給する夫婦には合計四百五十九ドルが支給されることになる。追加年金というのは、年金以外の収入が全くないか、僅少な老人に支給されるもの。

日本各地で観光キャンペーン ゴールド・ラッシュ時代の演奏家

カナダ政府観光局は、二月十五日から三月一日まで、日本各地でプロモーション・キャンペーンを行う。

これは、カナダの四季がおりなすさまざまな色彩やそれぞれの地方独特な風物を、旅行者を中心に、より深く理解してもらおうというもの。このキャンペーンには、古きよき伝統を受け継いだカナダの代表的な祭り「クロングアイク・デイ」から、三人のエンタテイナー（写真）が来日し、ゴールド・ラッシュ時代の酒場



音楽や、日本の歌などを披露する。

一行は東京（十五日―十六日）を皮切りに、名古屋（十七日―十八日）、大阪（二十一日―二十二日）、福岡（二十四―二十五日）、札幌（二十八日―三月一日）の各地を訪問する予定。

「クロングアイク・デイ」というのは、一八九三年に始まったアルバータ州クロングアイクでのゴールド・ラッシュを記念して、毎年七月中旬から十日間にわたって、同州エドモントン市が全市をあげて祝う祭り。

パレスチナ難民救済に三百余万ドル

カナダは昨年、パレスチナ難民を救済し、その定着を図るための国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）に対し、二百万ドル分の小麦粉を含む三百三十五万ドルの援助を行ったほか、緊急要請に応じて三十万ドルを追加援助した。これは中東紛争の平和的解決を求めるカナダの姿勢を示したものである。

四割ふえた小麦収穫

カナダの昨年の小麦収穫は八億六千四百三十万ブッシェルと、一昨年の四割増を記録した。一エーカー当りの平均収穫では、二十六・六ブッシェルから三十一・四ブッシェルへ増収したことになる。

銀座でプチの版画展

カナダの代表的版画家ガストン・プチの個展が、二月二十一日から二十六日まで、東京・銀座の養清堂画廊で開かれる。プチはケベック州出身で、フレンチ・エン国際グラフィックアート展（ドイツ）、ブラッドフォード国際版画ビエンナーレ

プチの「オダリスクII」



来日本に滞在、創作活動を続けてきた。日本の代表的版画家四十四人の作品をまとめた「現代の版画」（講談社）の著者としても知られる。

カナダの人口二千二百万余人に 主要都心部では減少傾向

カナダの人口は、昨年の六月一日現在で推定二千二百五十九万八千人（海外勤務の外交官や軍人、および調査時の不在者を除く）に達した。一九七一年の国勢調査では二千五百五十六万八千人であったから、五年間に約百万人増加したことになる。

州別ではオンタリオ州が八百十三万二千人（一九七一年は七百七十三万三千人）と最も多く、ケベック州六百四十四万一千人（同六百二十二万七千人）、ブリティッシュ・コロンビア州二百四十万六千人（二百八十八万四千人）、アルバータ州百八十八万人（百六十二万八千人）と続く。最も少ないのはニューファンドランドの五十四万九千人（五十二万二千人）。

主要都市では、都市周辺の人口はふえたものの、都心部では減少傾向がみられた。例えば、モントリオール市では一九

展（イギリス）、リュビ

アナ国際版画ビエンナーレ展（ユゴスラビア）など、国際的版画展に出品している。一九六一年以

七一年の調査より十五万四千人減の百六万であるのに対し、近郊を含めた大モン

トリオール市の人口は二百七十三万人から二百七十六万にふえた。同様に、トロント市の人口も七十一万から六十一万にへったが、トロント全域の人口は逆に二百六十万人から二百七十五万にふくれた。バンクーバーは市部で三十九万六千人（二万九千人減）、全域で百十三万六千人（五万四千人増）であった。

人事往来

○海上構造物に関する日加共同研究委員会に参加するため、P・H・アクロイド連邦政府運輸省運輸開発庁長官を団長とする代表团が来日（一月二十二日）。

○日加原子力協力協定の（安全保障措置に関する）改定交渉のため、カナダ政府代表团（首席代表D・W・フルフォード外務省技術経済局長）が来日（一月二十五日）。

○日加業種協議会に出席するため、カナダ農業研究所次長R・K・ゲウニー博士（採油用種子研究担当）らが来日（二月）。

○カナダ国防大学の教官・学生一行が視察・研修旅行の一環として来日（一月）。

本紙は、カナダ大使館から一月に一回発行されます。本紙掲載内容の転用、転載は自由ですが、その際は出典を明らかにして下さい。なお、ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

東京都港区赤坂七丁目三番三三号

カナダ大使館広報部